

(様式2)

校 種	小 ・ ④ どちらかに○	学校番号	1 4	学校名	宇都宮市立国本中学校
-----	-----------------	------	-----	-----	------------

令和5年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 国・県・市の学力調査などから（令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」より）

【国語】

「言葉の特徴や使い方に関する事項」以外の領域で市・県の平均を下回った。特に差が大きかった領域は「書くこと」で、市の平均を13.9ポイント下回っている。文章を書く設問においては、無回答の生徒の割合が市・県の平均よりも高い。

【社会】

全ての領域で市・県の平均を下回った。特に差が大きかった領域は、前年度と同様「世界各地の人々の生活と環境」で、市の平均を7.9ポイント下回っている。各領域で「複数の資料を読み取り解答する問題」に慣れていない様子がうかがえる。

【数学】

「関数」の領域では、県の平均をやや上回ったものの、その他の領域で市・県の平均を下回った。特に差が大きかった領域は「データの活用」で、市の平均を14.8ポイント下回っている。中でも、相対度数の問題や2つの折れ線から読み取った傾向から説明をする問題は市の平均を大きく下回った。

【理科】

「粒子」の領域で市の平均を2.0ポイント下回ったが、県の平均を1.1ポイント上回っている。分数・少数の掛け算、割り算など、基本的な計算能力に課題があることが分かる（数学科との関連）。その他の領域では、全て市・県の平均を上回っており、貸与パソコンで視覚的にイメージさせながら理解を深めたり、オシロスコープアプリを用いテレビで提示したりとICTの効果的な活用により学習内容の定着が図られている。

【英語】

全ての領域で市・県の平均を下回り、最も差が大きかった領域は「聞くこと」で、市の平均を5.6ポイント下回った。「書くこと」では、自分の名前を自己紹介するという簡単な問題においても正答できていない生徒が多く、設問に対して無回答の割合も約3割と大きな課題である。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから（令和4年度「宇都宮市学習内容定着度調査」）

- ・「勉強が好きですか。」の質問項目から、本校の肯定割合は1学年42.3(市平均43.8)ポイント、2学年28.2(市平均38.5)ポイント、3学年29.1(市平均39.5)ポイントと、令和5年度の3学年では、市平均を10ポイント以上下回る結果となり、大きな課題である。
- ・「学校の授業がどの程度分かりますか。」の質問項目では、3学年81.2(市平均81.4)ポイント、1学年84.6(市平均84.9)ポイント、2学年79.5(市平均81.3)ポイントと、いずれの学年も市平均を下回る結果となった。
- ・「ふだん、学校の授業以外に、1日どれくらい学習していますか（塾、家庭教師含む）」の質問では、平日「ほとんどしない」の割合は、1学年で20.2(市平均8.4)ポイント、2学年で21.4(市平均7.6)ポイント、3学年で1.7(市平均2.7)ポイントであった。また、平日「30分未満」の生徒の割合は、1学年で30.7(市平均12.2)ポイント、2学年で28.2(市平均12.6)ポイントと、受験生である3学年を除き、1、2学年どちらとも大きな課題と言える。本校、市ともに、土日「ほとんどしない」生徒の割合は、平日よりも更に増える傾向がある。
- ・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」の質問では、肯定割合が1学年で65.4(市平均64.1)ポイント、2学年で49.6(市平均63.0)

ポイント、3 学年で 71.8（市平均 72.0）ポイントと、1 学年のみ市の平均を上回ったものの、2 学年では大幅に下回っている。

（3） 授業等への取組状況から

- ・授業の始まりには席につく、先生や友だちの話を最後まできちんと聞く、授業に必要な学習用具を忘れずに持ってくることについてはおおむね良好な状況である。
- ・「自分の考えを、根拠をあげながら話すことができる。」生徒の割合はどちらも市平均を下回っている。

2 今年度の重点目標

「宇都宮モデルに基づく授業改善を通し、学びに向かう力の育成と学力の向上を目指す」

3 今年度の取組（「第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画」に関する取組は文頭に★、「令和5年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、授業における取組のうち重点は文頭に○）

（1） 基礎・基本の確実な定着

- ★小中一貫教育カリキュラムの推進（5月、8月、12月の研修を踏まえて通年）
- ★学力向上プログラム（独自）の「朝学習」の実施
- ★自主学習ノート・スタンダードダイアリー・クロームブックの継続指導及び指導の工夫（通年）
- ★○発表の仕方やノートの取り方など言語環境の整備、基本的な学習態度・学習技能の定着、「学習の約束」の徹底（通年）
- ・「家庭学習」指導を視野に入れた授業づくりと、基礎的・基本的な知識の定着（通年）

（2） 学習指導の工夫・改善（生徒を認め生かす授業の工夫）

- 宇都宮モデルに基づく授業改善の推進（通年）
- 「家庭学習がんばりの記録」の活用（通年）
- 校内授業研究会の活性化（通年）
- ★○「ノー部活デー」での家庭学習の推進（ありんこ学習室の利用）
- ★各種学習調査の結果の分析と公表
 - ・教科部会の定期的な実施と活性化（各調査の分析及び分析をもとにした指導の工夫・改善）
 - ・生徒一人一人の能力・適性等に応じた指導の充実（通年）
- ★効果的な発問、指示、助言、板書、ノート指導法の工夫と改善（通年）
 - ・指導と評価の一体化の推進（通年）

（3） 読書活動の充実

- ★全校読書の実施（週2～3）
 - ・ブックトークの実施（通年）
- 図書館だよりの発行（毎月）

（4） 家庭・地域との連携・協力

- ★家庭・地域から協力を得た学校行事の実施
- ★学習及びキャリア指導から家庭学習の習慣化を図るための説明（保護者会、各種通信等）
- ★保護者・地域と連携した土曜授業の実施（全1回実施）
 - ①市一斉土曜授業